

シビアアクシデント演習ツールの改良

Improvement of the severe accident practice tool

*川崎 郁夫¹, 中村 晶¹, 高橋 俊佑²¹原子力安全システム研究所, ²関西電力

福島第一原子力発電所事故の教訓を踏まえて開発した、シビアアクシデント (SA) 時の本部対応を疑似体験できる演習ツールにおいて、緊急時活動レベル (EAL) 判断をすることができるように演習ツールの改良を行った。キーワード: 原子力防災訓練, シビアアクシデント, アクシデントマネジメント, 緊急時活動レベル (EAL), 原子力災害特別措置法 (原災法), 特定事象 (SE), 緊急事態事象 (GE), 警戒事象 (AL)

1. 緒言

福島第一原子力発電所事故の教訓を踏まえて SA 演習ツールを開発したが、平成 25 年度下期から、緊急時活動レベル (EAL) が導入されたことにより、訓練者が従来の通報連絡ならびにプラントの影響緩和措置 (アクシデントマネジメント(AM)) の意思決定を的確に実施するだけでなく EAL 判断の演習ができるように演習ツールの改良を行った。

2. 演習ツールの改良内容

EAL 判断の演習をするため、従来の原災法第 10 条第 1 項に基づく特定事象 (SE)、原災法第 15 条第 1 項に関する緊急事態事象 (GE) の他に、新たに警戒事象 (AL) が加わったことにより、AL を含むシナリオを追加した。また、同時に複数の EAL 事象が発生するシナリオを追加した。演習中に EAL 判断基準の確認ができるよう、ツール起動画面および事象進展画面に EAL 説明を表示できるようにした。

3. まとめ

今回改良した演習ツールを用いた研修により、緊急時の EAL 判断について、緊急対策本部の構成員に対して SA 教育を実施した際に、EAL 判断ができることが確認できた。

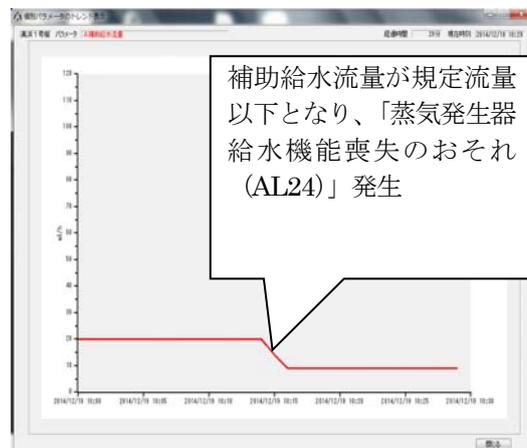


図1 警戒事象 (AL) の例



図2 教育ツール起動画面

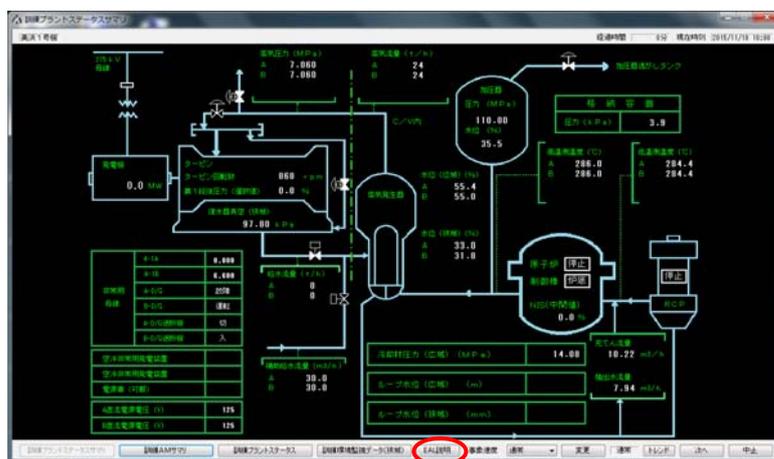


図3 事象進展画面の例 (訓練プラントステータスマリ画面)

参考文献

(1) 川崎郁夫ほか, 原子力学会 2014 春の年会, C22, 東京都市大学 (2014)

* Ikuro Kawasaki¹, Akira Nakamura¹, Shunsuke Takahashi²

¹ Institute of Nuclear Safety System, Incorporated, ² Kansai Electric Power Co., Inc.